

令和5年度 関係者評価の結果について

令和5年度に実施した認定こども園桜台いちい幼稚園・保育園の自己評価の結果についての関係者評価の概要は次のとおりです。

学校法人 北邦学園
認定こども園桜台いちい幼稚園・保育園

記載用

建学の精神「自然から学ぶ」

1 本園の教育保育目標

- ◎ 思いやりのある子
- ◎ 丈夫で明るい子
- ◎ 想像力豊かな子
- ◎ やる気のある子

関係者評価の区分

- A：成果を上げている。
- B：ある程度成果を上げている。
- C：もう少し努力が必要である。
- D：改善が必要である。

【各学年のねらい(年間)】

- 0歳児 様々なものに興味をもち、保育教諭と一緒にのびのびと遊ぶことを楽しむ
- 1歳児 いろいろな遊びに興味をもち、保育教諭や友達との関わりを楽しみながら遊ぶ
- 2歳児 様々な遊びをする中で、保育教諭や友達に親しみを持ち、関わりながら一緒に遊ぶ
- 3歳児 様々な遊びや活動に興味をもって取り組む中で、自分なりに気持ちを表現しながらいろいろな友達と一緒に楽しむ
- 4歳児 様々な活動に目的をもって意欲的に取り組む中で、色々な友達と自分の気持ちや考えを伝い合いながら一緒に活動することを楽しむ
- 5歳児 一人ひとりが目的をもって様々な活動に意欲的に取り組み、いろいろな友達と互いに気持ちや考えを認め合いながら自信をもって遊びや活動を進める

自己評価	各学年のねらいに対する評価内容	関係者評価	
		評価	意見等
「A」	<ul style="list-style-type: none"> 一年を通し、保育教諭が年間のねらいを意識し、保育にあたることができた。 各学年、目的をもって保育をしたことにより、ねらってきた姿と重なる部分が多く見られ、成長が感じられた。 	「A」	<ul style="list-style-type: none"> 各学年のねらいが「遊びを楽しむ」をテーマに、発達段階に応じた適切なものとなっている。また、季節を感じながら一年間を通して遊びの中で興味・関心を高めたという報告があり、狙い達成へ向けた取り組みがなされた結果と考える。 目標を達成できてよかった。 各学年のねらいが無理なく適切なものとなっていると感じる。ねらいを意識した保育に取り組まれており、ルールを守ったり友達との関りが深くなるような楽しみ方の指導が行き届いていたように思う。 個の関心⇒ほかへの意識⇒個の確立へと収束していく成長が色々なお子さんを通して伝わるものがあつた。ねらいが体現されていた。

2 重点的に取り組んだ目標・計画について

目 標	具体的な取組み計画	自己評価	関係者評価
			評価・意見等
1, 円滑な園運営 自己評価「B」	<ul style="list-style-type: none"> ☆コロナウイルスが5類になったことをふまえ、様々な保育活動の見直しを行いながらよりよい環境や保育の提供を目指す 保育行事の趣旨・ねらいを確認する場を設け、職員の意識統一を図る。 行事や保育をコロナ禍で考慮し変更したことで、子どもたちによりよい環境になった面に目を向け、従来に戻す部分と変更する部分などを熟考し、改めて計画や内容の精査する。 	【評価内容】 <ul style="list-style-type: none"> コロナウイルスの対応が緩和したことで、行事の形を変更するに伴い、その行事の本来のねらいを考え、それにそった内容となるように考えることにより、職員が改めて行事の趣旨を理解する機会につながった。 計画などを話し合う機会が増え、意見やアイデアを積極的に出す姿も見られた。子どもにとってよりよい環境になるように工夫しようとする姿勢が感じられた。 行事に参加する園児の制限を緩和したことにより、今までなかなか見る機会のなかった異年齢児の姿を目にすることが増えたことはよかった。 コロナ禍の行事や保育しか経験のない職員が多く、保育や行事の実施方法の意識統一が難しいことがあつた。どの程度の間隔を取って環境構成をするか、内容や時間はどうかなどを考えながら設定を行うことにより、時間がかかることがあつた。実施してみて気付く反省点や課題点も多く、変更することによって生じる問題を事前に考慮する 	評価 [A] <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症の5類移行を受けて、コロナ前の運営にすべてを戻すのではなく、行事などのねらいを改めて確認し、改善を図ることで職員が園の取り組みのねらいを共有・再確認することが出来たことは評価に値すると考える。 新たな体制づくりに対応できる体制づくりに期待する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・よりよい保育を目指すため、職員が互いに意見を出しやすい雰囲気を作る。創意工夫の提案や反省など積極的な意見交換が必要であることをふまえ、報告・連絡・相談がなされる風通しの良い職場を目指す。連絡ミスの減少を目指す。 	<p>のが難しいと感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・じっくりと職員間で伝えるべき情報を共有する方法や時間の設定に課題が残った。連携が不十分だと感じることもあったため、シフトの組み立て方から連絡の周知方法などを改めて考え改善することが必要と感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナウイルスに対する一時期の一律に厳しい制限から緩和されるようになったことで、新しい保育の形を模索する段階にあると思う。マスク着用ルールが緩和されるなかで風邪等の感染症に対する場合に適切な着用も呼びかけてほしいと感じた。 ※咳・鼻水がひどくてもマスクをしていない子どもがいることが気になった。 ・緩和したことで、芋ほりの付き添いに参加させてもらった。保護者にとっても初めての経験が出来嬉しかった。 ・変化が多く常に臨機応変が求められた難しい1年間だったと思う。どの選択、判断にも論理があり、その時のベストだったと思う。内部の連絡トラブルがもしかしたらあったのかもしれないが、保護者には感じられなかったため良く対応されていたと感じる。
<p>2. 子どもへの援助と発達支援について</p>	<p>☆一人ひとりの子どもを見つめ、すこやかな成長や発達をしていくための援助を考える。</p>	<p>【評価内容】</p>	<p>評価 [B]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員一人ひとりが子どもを丁寧に見取ろうとしたこと

<p>自己評価「B」</p>	<ul style="list-style-type: none"> 職員でこまめな園児の成長発達や留意点の情報共有を定期的に行い、連携を取りながら子どもの健康や安全に配慮し、成長につなげていけるようにする。 <p>⇒主任が中心となり、保育教諭の姿や保育の様子を把握・指導を行う。保育者中心ではなく、子どもの意欲を大切にするための保育がなされるように配慮する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもの人権について振り返り、自分の保育を見つめなおす機会を設ける。学期ごとに保育の振り返りを行うようにする。 研修などの機会を積極的に取り入れ、職員一人ひとりが子ども理解を深める意欲を高め、研鑽に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 職員一人ひとりが、自分のクラスの子どもを丁寧に見取ろうとする努力を行い、個々の理解を深めた。また、その子によって意欲を持って取り組める導入や保育内容について、考えながら保育に取り組めた。 担任やクラスの補助教諭が把握している子どもの姿を職員間で共有するという点では、文面や確認の会での周知は行うことができた。主任の各クラスの把握・指導に関して、もう少し各クラスに手厚く意識を向けられるとよかった。 保育者が忙しくなることで、否定的な言葉をかけることに気をつけ、振り返る機会となるよう、チェックリストを元に保育を振り返る機会を設けることが出来た。職員もそれにより意識することはできた。保育の状況によって、子どもを待たせることがあったなどの振り返りの声もあり、自分の保育を見つめなおす機会となった。今後も職員一人が自分の保育を振り返る機会となるよう、引き続き取り組んで行く。 研鑽のための研修を園で提案したが、勤務時間内に気軽に受けられる体制を作るまでには至らなかった。その中でも、研修を受ける職員が増え、報告書などを見ると子ども理解を深めている姿も見られた。 	<p>や子どもの様子について職員間で共有を図ったこと、子どもの人権を大切にしてきたことなどについての報告から十分に子どもに寄り添い、適切な援助や支援が図られたと考えることができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの成長に大きく寄与できていると思う。保育者に時間的余裕を持つことが出来る仕組みづくりに期待する。 子どもたちそれぞれの発達に応じた保育に取り組みられていると感じる。全項目に関わることになるが、「異年齢児の姿を目にすることが増えたことはよかった」という面で系列の他の保育園との機会があれば新たな発見や多様な価値観にもっと触れる機会になるのではないかと思う。 個人的に個別の相談にも乗ってもらい、対応してもらった。 限られた時間や労力をどこに使うのか、人に使うのかシステムに使うのか、対象は誰なのか難しい判断を迫られることも多いと思う。研修も働き方改革を考える
----------------	--	---	---

			と勤務時間内がベストだが、実際自己研鑽をすべて勤務時間内に収めるのは無理があるとも思う。 (求める程度にもよるが) 先生が積極的に向き合おうとしているのが現れているのでAだと感じる。
3. 保護者対応と連携の強化 自己評価 「C」	<p>☆連携を大切にし、子どもと保護者が安心して過ごせる園を目指す</p> <ul style="list-style-type: none"> 行事などの際は、園から趣旨やねらい、保育の様子を発信し、知る機会をすることで、保育の内容や流れなどの相互理解を目指し、協力いただきながら円滑な運営を行う。 行事ごとのアンケート実施や送迎時や懇談会などの機会を有効に活用し、保護者の声を聞く。子どもの成長や悩みなどについて共に考えていく開かれた園を目指す。 ICT を有効活用しながら、手紙や情報などの発信を積極的に行う。またその際にはわかりやすいお知らせの仕方を模索し改善に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 園だよりなどで、園から事前の行事の趣旨やねらいを伝えることができ、保護者の温かいご協力を得ながら進めることが出来た。 行事ごとのアンケートを取ることで、行事実施の良いところや課題点など、保護者の目線から知ることが出来たため、改善に活かすことが出来ると思う。 行事や保育を行う際に、必要な確認をアンケートで取ることで、職員全員が回答を把握しやすかった。一方でアンケートでも回答可能なことについても、職員が口頭で確認していることがあり、システムを有効活用できていないことがあった。 年度末アンケートで、手紙の発行時期についてのご意見や内容が分かりづらいという意見が見られた。 発行時期については、遅くなるが多かったため、保護者が余裕をもって予定に見通しを持てるように時期を考慮し改善していく必要があると考える。内容についても、様々な保育形態や時間があるため、お知らせをする際に内容が多くなったり、どの部門・年齢を対象としたお知らせなのかがいまいきになったりしたことを感じた。色分けなどレイアウトやどの対象へのお知らせかを明確化する工夫を考える必要を感じた。 	<p>評価 [B]</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な家庭・保護者がいる中で情報の共有は園だけでなく、小・中学校でも課題となっている。情報の伝達方法だけでなく、伝わりやすい文面や伝わりやすい文面や伝えるべき情報の精選も求められていると考えていくといいと考える。 課題をしっかりととらえることが出来ていると思う。課題が明らかになっているので具体的な対応に期待する。 ICT を有効活用しながら手紙や情報などの発信が行われている点がいいと思う。保護者対応という点では送り迎えのわずかな時間でも先生がいつも笑顔で接して下さり、安心感につながった。行事ごとのア

	<ul style="list-style-type: none"> ・コンセプトブックの作成、紹介。保育の意図、育つ子どもたちの生き生きとした素敵な姿など、園の魅力を紹介する機会を作り、よりよい園理解への工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コンセプトブックは、未就園児の説明会などに使用することで、新規の保護者に園の保育の魅力を知ってもらえる良いツールとなったと感じる。しかし、活用回数においてはまだ活かせるところがあると感じるため、活用の機会を増やしていく。 	<p>ンケートを取ることで、保護者からの様々な意見や感想を聞けるのでとてもいいと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アプリで発信されている連絡にうまく目を通していないことがあるため、Bとしました。色分けやレイアウトの工夫がされることを期待する。 ・園だよりの配信内容や時期（持ち物の準備期間など）も、概ね適切だったと思う。お便りの見やすさは少し工夫を足してもいいかと思う。華やかで可愛らしいがすべてに目が行くので、見るべきポイントが絞られていると要点が捉えやすいと感じる。ICT移行期にはどうしてもアナログの方法と同時に並行となると思うので仕方ないかと思う。聞き漏れや伝え忘れがあるに違いないと意識しておくことが大切だと思うし、意識しているのも伝わった。
<p>4. 保育環境や玩具の見直し</p> <p>自己評価 「B」</p>	<p>☆子どもが安全にのびのびと過ごせるような保育環境や遊具、玩具がどのようなものであるかを見直す</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの主体性を育む大切な遊びは、環 	<p>【評価内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究保育において、今年度は環境について考えた。 	<p>評価 [A]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在ある環境の効果的活用や改善を行い、子どもの意欲を引き出すための研究保

	<p>境設定や計画が重要と考え、建学の精神『自然から学ぶ』を基に保育を設定する。</p> <p>→学園で選定している玩具の基準と照らし合わせながら、研究保育などの機会などで、様々な環境や保育の中で自然な姿で過ごすための学びを深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年、誤飲やアレルギー、取り残しなどで命が失われるニュースを目にする。それについて危機感をもち、そのようなエラーが起こる要因を常に考え危険を事前に見出す大切さを周知する。それをふまえて、身の回りにあるものについて、安全や健康を害す危険があるものを、事前に取り除いたり適切なものを選んだりする意識をもつ。 ・コロナ禍の経験も活かし、環境や保育内容の見直しを行う。当たり前に行ってきたことに疑問をもち、安全や健康などについて再度考え職員全員で意識する。 	<p>『自然から学ぶ』の精神のもと、ねらいをたて、園全体で取り組むことが出来た。どのような遊びや環境を設定すると子どもの意欲が引き出せるのかを考え、それに沿った動線や遊具の置き方、子どもの興味を掻き立てるにはどうしたらいいかを、みんなで見合って意見を出し合う経験が出来たことは、職員にとって大きな学びとなった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誤飲については、保護者に手紙でも周知をするほか、職員でも、大きさの確認の仕方などを振り返る機会を作り、排除していく意識をもつ職員が増えたことはよかった。 ・ヒヤリハットの作成や判断基準などに戸惑い、手間がかかる割に色々な危険に事前に気付くという本来の目的を有効に達成することが出来ないように感じた。そこで、職員全員が目を通す保育日誌に記載欄を作り、書き込んでいくことに変更をした。定着に時間がかかることは考えられるが、様々な安全について目を向けるきっかけに出来るよう今後につなげていく。 ・コロナ禍でよかったことはそのまま活かし、分散などで行うことでより落ち着いて行うことが出来た行事もあった。 ・全員で集まって行う行事については、引き続き換気や消毒についての行い方を改めて意識し、健康のための取り組みについては、意識をなくすことなく取り組んで行くことが必要だと考える。 	<p>育が積極的に行われていることが、資料「本年度の研究」から十分に伝わってきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・誤飲などの事故を未然に防ぐための環境の見直しや保護者への周知など危機管理が十分に意識されていると感じる。 ・子どもたちが楽しく遊び、学べる環境づくりに努力をするとよい。 ・年長になると身体能力が上がり、これまでできなかったことが簡単にできるようになることで、思わぬ事故にも気を付けていなければならないと感じる。具体的には園児二人がピアノの椅子に飛び乗ってじゃれ合ったり、突き落とす真似をしたりしていた。担任の先生がすぐに注意を促していたが、万が一の危険を鑑み、環境の見直しや定期的な安全指導を行っていくとよいと感じる。 ・危険から守ること、子どもをのびのびと遊ばせることはバランスが難しいと感じる。いつも何かあればその都度知らせてもらえるため保育環境に関しては安心し
--	---	---	---

			<p>ている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全にはとても気を付けていると思う。ヒヤリハットは気軽に報告できる雰囲気作りがとても大切だと思うため、書き込みやすさを工夫したのは心理としてとても有効だと感じる。 <p>くみ組の今年の保育はとても面白いと思った。ブースに分けてある程度距離をとれる工夫があるのは今年の子どもたちに効果的だったのではないかな。</p>
--	--	--	--

4 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法	関係者評価	
		評価	意 見 等
①円滑な園運営	<p>○昨年度の反省をふまえ、保育や行事運営の際に、円滑な連携をとり、よりよい保育の提供を目指す</p> <p>【行事や保育のねらいや意図の共通理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに作成している経営案に記載されているねらいについてみんなで見合い、意識統一をして行事の計画・準備・実施をする。 <p>【保育教諭間の連携の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理職で仕事内容や園運営についての確認を定期的に行い、決定したことを明確化して職員が混乱せずに仕事に取り組める体制づくりを意識する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・職員間の連携・共有は円滑な運営のためには必要不可欠なことではあるが、そこに時間をかけない工夫、そのための時間の確保は必要だと思う。PCの活用や日誌の見直しなども含めて、業務負担とならないようにする必要があると考える。 ・日々を大切に努力に努めてほしい。 ・保育教諭間の連携の向上という点では先生同士の協力体制を築く意味でとても重要であると思うため、進めていってほしい。 ・狙いについてみんなで見合いをするという点も園運営に欠かせないと感じる。子どもたち

	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に計画や準備物を全員が把握できる共有方法で周知し、職員が自分から計画に目を通し、役割や内容を確認して、相互に声をかけながら、取り組む意識をもつ。 		<p>の成長に寄与するよりよい保育の質の向上につながっていくと感じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナが明けてまた新しい流れが出来ていくと思う。前を知っている方とそうではない方の意見が上手に混ざるといいかと感じる。
<p>②子どもの人権を意識した関わり</p>	<p>○職員一人ひとりが、子どもたちの人権について考え、自分自身の関わり方を振り返り、安心して過ごせる保育の場を目指す。</p> <p>○職員が心身ともに健康に過ごし、子どもと豊かな心で関わる環境づくりを行う。</p> <p>【保育の振り返りの機会を設ける】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近年、不適切保育などを取り上げるニュースが散見されることをふまえ、職員一人ひとりが日頃の声掛けや援助について、子どもたちを尊重した声掛けや援助になっているかを振り返る。(令和5年度に行った、子どもの人権チェックリストの活用) ・子どもたちの成長にとってよりよいものになっているかを考えた計画や実践を行う。 (特に、節分など日本の伝統行事や、季節ごとの行事についても、正しく由来を知り、安心して意欲的に楽しめる内容であるかを考慮する) ・職員が子どもたちの成長や姿について、気づいたことを伝えあい、自分たちのクラスだけでなく、園全体で子どもたちを見守る環境を目指す。 <p>【職員が心身ともに健康に過ごし、保育に意欲をもって取り組める環境作り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちへ愛情を注ぎ、温かく子どもと接している職員たちが心身ともに健康で余裕をもって保育に取り組めるシフトの組み方、人員配置、仕事内容について、管理職を始めとして話し合いの場を設け、改善に努める。 ・仕事内容を見直し、勤務時間などの改善に取り組む。職員一人ひとりが自分の仕事の進め方について見直し、無駄のない仕事の進め方を考えて取り組む意識をもち、業務の時間短縮に努める。 		<ul style="list-style-type: none"> ・不適切保育が起きないように管理職から職員へ発信し続けることや研修の実施によって、園全体として知識と意識を高めることが大切と考える。 ・子どもたちは日々の保育の中で家庭以外でも自分の気持ちを理解してくれるという大人がいることがどれだけ心強いか感じていると思う。不適切保育についての心配はなかった。このまま継続してほしい。 ・先生は子どもたちと密接にかかわるため感染症リスクも大きいのではないかと思う。十分な休養を取り、心身ともに健康でいられるような職場環境づくりに取り組んでもらいたい。 ・就学に向けた発達への気づきなどが園で共有できると親は助かるのではないかを感じる。しかしそれぞれの家庭に声をかける難しさも感じる。

<p>③保護者対応と連携の強化</p>	<p>○保護者が安心して子どもを預けられるよう、連絡系統のミスの軽減に努める。 ○保護者が子どもの様子をつぶさに知ることが出来るようにする。</p> <p>【手紙などの内容・発行時期について、分かりやすく適切な発行をする】</p> <ul style="list-style-type: none"> 手紙などの配信や登降園時間の管理などを、オンラインシステムで行っているが、活用できていないことにより、不便さを感じることもある。再度使い方を検討し、利用方法を考慮することで、保護者との関係ミスの軽減や、情報交換の円滑化に努める。 定期的なアンケートで、保護者の声を聞き、園と保護者のコミュニケーションの機会とする。 <p>【保護者との綿密な情報共有】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日頃から子どもの様子や、気になる姿なども保護者の方へ伝えておくことで、安心感を持てるようにする。 子どもたちが園の保育の中で、のびのびと遊び、楽しそうに過ごす姿を発信することで、来園する機会が少ない保護者の方にも、園の様子が伝わるように取り組む。 園の教育理念や行事や保育の意図を発信していくことで、園の保育への保護者理解を深めるとともに、園見学などにも保護者の方が気軽に来れるような環境づくりを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も園からの一方向の発信とならないように、保護者が声を出しやすい関係を作っていくことが大切と考える。また、保護者のみならず地域との連携を図っていくことも大切にするという視点も加えていくとよいと考える。 この項の自己評価が最も低くなっているが、課題・問題点をしっかり把握できているため、今後の実践に期待する。 <p>※次年度の研究について触れられていないが日々の研究は子どもたちの成長に不可欠であるため、その件についても期待する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 担任の先生のみならず、園長先生、副園長先生をはじめ、色々な学年の先生が日々の成長の様子や子どもが楽しそうにしていることなど些細なことでも伝えてくれた。日々の小さなコミュニケーションの積み重ねによって信頼関係を気付くことが出来ていると思う。丁寧な保護者対応が実践されている。 保護者の立場からはそのようなミスがあったことについては、全く気付かなかった。
---------------------	---	---